

2024年3月期 第1四半期 決算説明 電話カンファレンス 主な質疑応答記録

日時:2023年7月27日(木) 12:00 ~ 12:45

出席者: 代表取締役 専務執行役員 経営企画本部長 杉村 英男

<各セグメント実績について>

Q: 第1四半期の各セグメントに実績について、計画に対し、どのセグメントが上回って、どのセグメントが下回ったのか説明して欲しい。

A: 期初の段階で第1四半期の予想は公表していないが、総じていうと、化成品と電子先端材料は売上・利益ともにダウンし、ライフサイエンスは当初の予想に比べて、比較的上昇したと考えている。

特に、化成品は海外を含め、数量が伸びなかったこと、電子先端材料は半導体関連製品の数量が伸びなかったことが主な要因。セメントは想定並みの数量で、価格修正の進捗は順調で想定通りの仕上がりだと考える。

<化成品について>

Q: 化成品に関して、特に塩ビが悪かったという説明であったが、塩ビと苛性ソーダについて国内・海外に分けて解説して欲しい。

A: 国内の苛性ソーダは値上げが浸透し堅調だったが、海外の苛性ソーダ、VCM、量は少ないが塩ビ、これらが前年同期と比べ数量も価格も大きく落ち込み、その影響が相当大きかった。

<セメントの値上げについて>

Q: 石炭価格が下落傾向にある中で、どのようなロジックで値上げを浸透させていくのか。

A: 価格是正の1番の理由は石炭価格高騰であったが、それ以外にも事業の収益性つまり適正なマージンという観点でもセメントは厳しい状況にあった。加えて昨今の物流費や人件費の高騰といった付帯費用の増加も進んでいる。石炭価格自体も変動が大きく不透明であるので、適正なマージンを維持する形で交渉を進めていく。

以上